

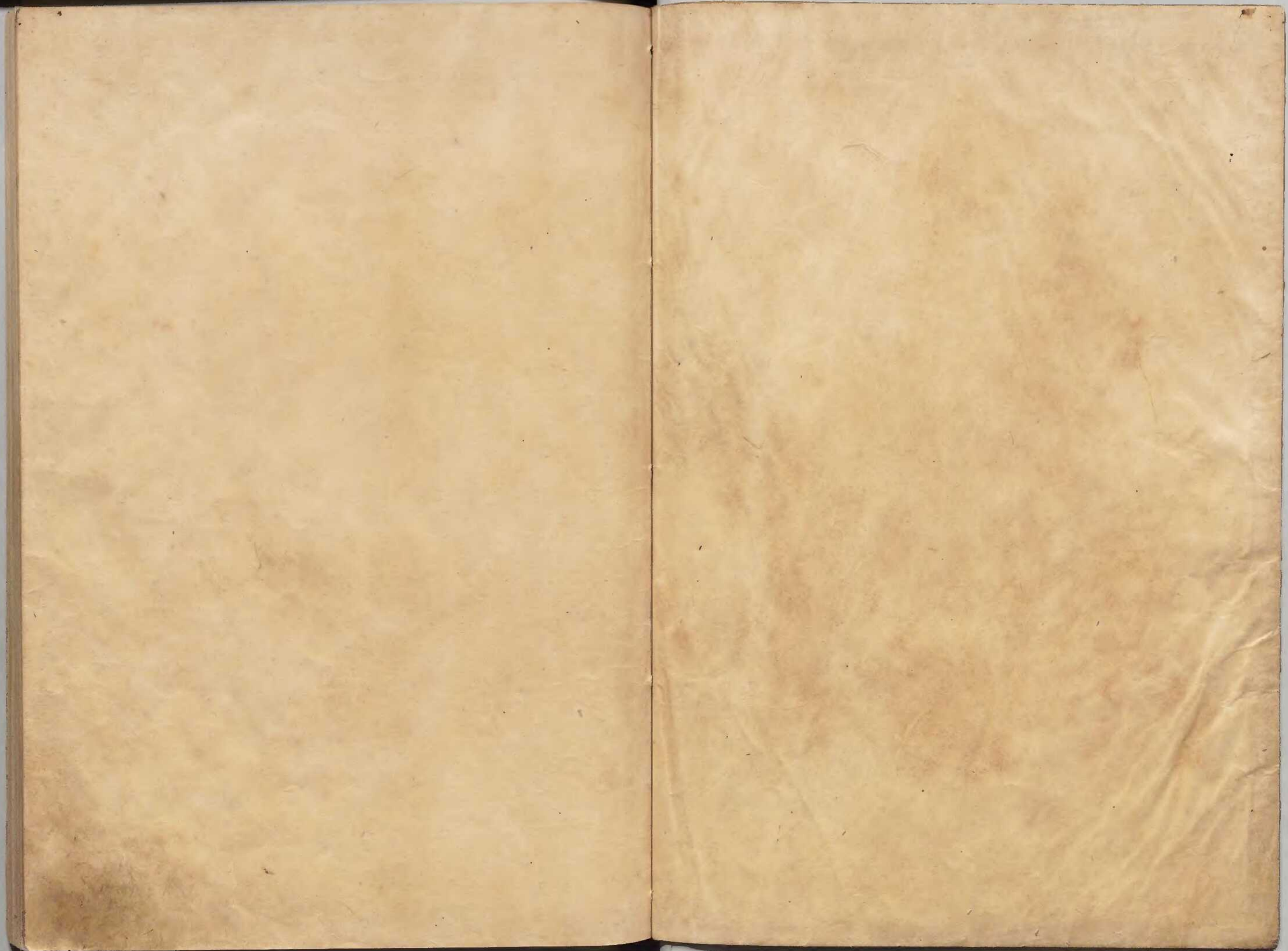
寛永諸家譜

清和源氏戊二冊之内  
頼親流

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186( 33 )
函號	特 76 1









土方

石河

依回

大森

幸田

朝日

江川

寛永諸家系圖傳

清和源氏

戊二

頼親流

土方

多田満仲乃次男大和守源頼親より  
八代土方太郎秀治より後胤なり

某

久三郎

淺草文庫



天文年中織田信長より従ふ  
弘治元年信長土岐氏を弟澄よおわく  
合戦のとき先陣よりみて討死す時  
り二十一歳

雄久

虎之郎 勘右衛尉 生國尾列

三歳小して父よらなれ十八歳乃中さ  
織田信雄より久く甥列 田丸乃

城より河原一町許賀の園より一揆蜂起  
と雄久一揆の将兄才二人とよりら少く家  
の一揆退むと信雄その功と感して諱  
の字とたまふそのより雄久信雄の命と  
うけく棟別のよりあ許賀の園は越一に  
國人二通とより雄久款三百人と教度  
合戦よりおひ敵あす討とれけり  
田丸の城よりさくをれを教百邊をせさ  
と雄久この勢と引ぬくはぬは賊



信と謀して國中靜謐なり

天正十一年信五位下に叙す

同十二年信雄中秀吉石和りたり

時秀吉よりととめらるる信雄の家

信三人とたもりて内通せんことを

し事とてに病歿せられ信雄七歳

の城におおく雄久は命して星崎の城

主星田長門守と謀せしむこの時雄久

功ありゆへ信雄大よるえんて

東照大権現おつけたまふこれより去とお

して信雄小加勢一たまふ秀吉利と

うなひていまちり

同年の秋秀吉教万務と引おく勢列

入富田本村とほひとて来名の

城におもじしめ和と信雄より

信雄をふら雄久とほりて和睦と

てふゆる信雄二とよりこひくあ家

の戦とやびること信雄久功あり



こく大山の城よて四百五千石となまふ  
同十八年秀吉相列小糸氏と征伐の  
め小田原の城とらこじこま信雄  
小糸十郎氏房と射陣とりの時氏房  
信雄の陣へ取討せしに雄久大と戦て  
数人とうらぬ  
冬長五年園ヶ原合戦も前下野の小  
山よりおおく  
大権現と流しきくまの家とるまら作よ

よりて契列よおもじき前田肥前守利長  
とおましく小園とたりけくは列  
大津よりおおく  
大権現よ湯しきくまの家けをより  
台座院殿よつくとくまより大坂少く  
を侍と

同六年四月

台座院殿の御下向のとき供進と

同七年正月二日



右徳院殿の命にらり河内守に任一則重  
の御脇指とたまふる

同八年 宅地とすまふ

同年のくれ

右徳院殿河内守に宅に渡御あり

同九年の冬

右徳院殿又渡御あり一とき来國光の

脇指とたまふる

同十三年十一月十二日死を五十六歳

功運建忠こそ号とす

雄氏

丹後守 尾刈大山の城とす

長二年 渡五位下り叙一丹後とす

同

同五年 園り原河陣のとき侍を大坂

あ方の御陣は酒井雅樂次忠世くみ

く侍をそののちあ方の御普請と



治心

寛永十二年三月病小なり勅はる事

阿しらすすて家督と雄高はゆ川を

同十五年六月二十八日死五十六歳堅彦

宗圓と号す

雄重

まろハ子端

生息山城

九采小一

台徳院殿と存す

慶長八年伊小姓となりて勅仕と父

死して後台命により家督と行

同十四年十二月廿九日没五十一

叙一掃部以り任す

大坂あり乃伊陣

台徳院殿乃修了一酒井雅樂以

忠世とみりあり

元和八年九月廿八日女子石乃加増と



洋領よりのり

寛永二年九月二条に新章のときしんしょうのとき

將軍家清じゆひやうしては系内の修しゆいのかく

り列れつ

同五年十二月廿九日死しと二十七歳にじゅうしちさい  
雪江ゆきゑよりより号ごうと

雄政ゆうせい

内膳ないぜん

元和四年死しと一系通いっけいとお中ちゆうと号ごうと

雄則ゆうのり

外記けい

寛永二年死しと高溪たかき久松ひさまつと号ごうと

雄次ゆうじ

義之助よしのすけ 武列ぶれつ 江戸えどよりより

母はは内蔵ないざう友馬ともま助すけとと号ごうと



元和七年

右徳院殿と評と

寛永六年父雄重死して後家督とつて

能列奥列乃うらよて二万石と領と

同十七年十二月庚九日没五位下り

叙一河内守り任と

女子

那須英徳守り妻

寛永六年五月死と

女子

九鬼式部少輔り妻

雄高

務五郎 本工助 武列 江戸よまら

母ハ前内大臣織田信雄のむとめ

寛永十二年家督と成わく伴勢三子



三ノ文

立圖

郡乃うらまへく一百石江川粟右郡田  
と乃内よて二千石都合一百二千石と領

病よよ申て 遍塞と

家飯た巴



● 但務 たむら

清水九郎左衛門 しみず 九郎 左衛門  
生國尾列古渡 なまくに おしり くれい くれい  
佐久間右衛門尉信盛 さくま 右衛門 尉 信盛  
清久後小判髪 しみず 久 後 小判 髪

土方 いちら

初はつの善原氏ぜんげん小こして清水しみずと称なづとこ  
いへとも務むら出で代しろは母方ははの氏うぢと用もち  
て土方いちらとあらしむ



して道董と号と八十歳とて死す

二六  
家務

又右邊

生國同前

佐久君信盛より信久

永祿三年尾列桶狭間におわく合戦

乃時佐久君甚九良とてさくし軍功あり

同十一年江列佐木義禎没落乃時

佐久君父子の眼前にて疔とあり首

級と得たり

元龜二年勢列長湯堤乃とて合戦の

時甚九良小とてし乃時味方乃勇士

二人先陣とてんて横池と入あけゆ

敵二乃勇氣とてにとてく敗北と家勝

そ乃一人たり

天正八年一向宗乃門沓大坂と勢殊

てとてく小之年とてふ乃時信長佐

久間父子と命とてにとてせうじ時小



毛利氏より邪説とてくらんため大船  
六瓶玉葉とゆんで運送とて乃ゆへ  
家務池じゆく合戦と信長大坂の城  
と巡見していづく歌共といけらりて  
城中の唐突とあんとて家務とて  
きたてとるつら歌二人といけとる後  
大坂和睦となりて佐久る父子罪ありて  
劫奪とつらつら順地とのそらつら時小  
甚九節の母なつひは妻子安否あり

家務安否り格さく二ととるさへく  
和泉乃場より家とて幾多橋をおわて  
信長乃使長谷川友五郎と格さあふ友  
五郎とつら家務りつらとて信長  
ゆへん事とゆへ家務あへく二とと  
まじゆはあふ判賢して信長は信  
すは後佐久る父子和泉の場より紀州  
小川家家務も又二ととるさへく  
慶長四年十一月死六十二歳法名宗心



勝直

土方守右衛門

元龜二年八月尾刈鳴海より

母ハ土方刑部少輔うむをめ

天正十八年秀吉小糸氏と征伐の時

勝直土方河内守より属とある新岩付

の十郎氏房の共土方河内守陣をよとて

よつて河内守四人の勇士と云いし

歎とせしむ勝直と其の四人のうち也

織田信雄計事と関して生駒信之郎と使

うて勝直より武勇と感

同年秀次より久く母遇と云うり清水

とあつて母乃氏と云いし土方と称

文禄二年加藤左馬助嘉明より属して朝

解におまじく嘉明船と云いし勝直

いよみたりけり疵と云うり高船

ととりて陸より入り又たわりの歎と云



慶長五年 國原陣乃時又嘉明之弟

八月二十二日 本曾川とてり同日三日

阜保とせめく大門口とてり時之勝直

とんと七曲より勝直二人と実之せく

人として乃首とてり一は同輩六人

急りてせく武友丸よりりる本造友

遠佐武友丸とまもりて二曲とてり

時井伊兵部が補細川越中守加友た

る助謀如よりり本造石垣よりり

口とてりまてふせきたるふ本造の家人

海津た遠一番とてりみせく勝直とてり

と合せ海津雄伏とてり勝直とてりありて

はあり海津とてり鉄炮乃者四人と

して本造とてり一は本造鉄炮よりり

武友丸とてり中保一川よりりてり

天下一統乃時嘉明領地乃加増ありて

勝直とてり二千石とてり

そりち忠告まにほり



同十四年

右徳院殿より之を以て其のまじり所技持方と

たまはる家

ひらきりえ

元和元年大坂陣の時

りあ

右徳院殿より之を以て其のまじり所技持方と

てい

まふさじまのき

款とうらうらう花房右の助二進と見く

さいん

まき

まき

まき

内陣乃ら内旗下乃法士軍功乃と申

さた

下と御沙汰ある所務並と功と賞せら

まき

進て千五百石乃領地と為る

勝次

五郎左衛門

まき

慶長十九年武列江はせら

まき

寛永九年

將軍家と稱し其のまじり家

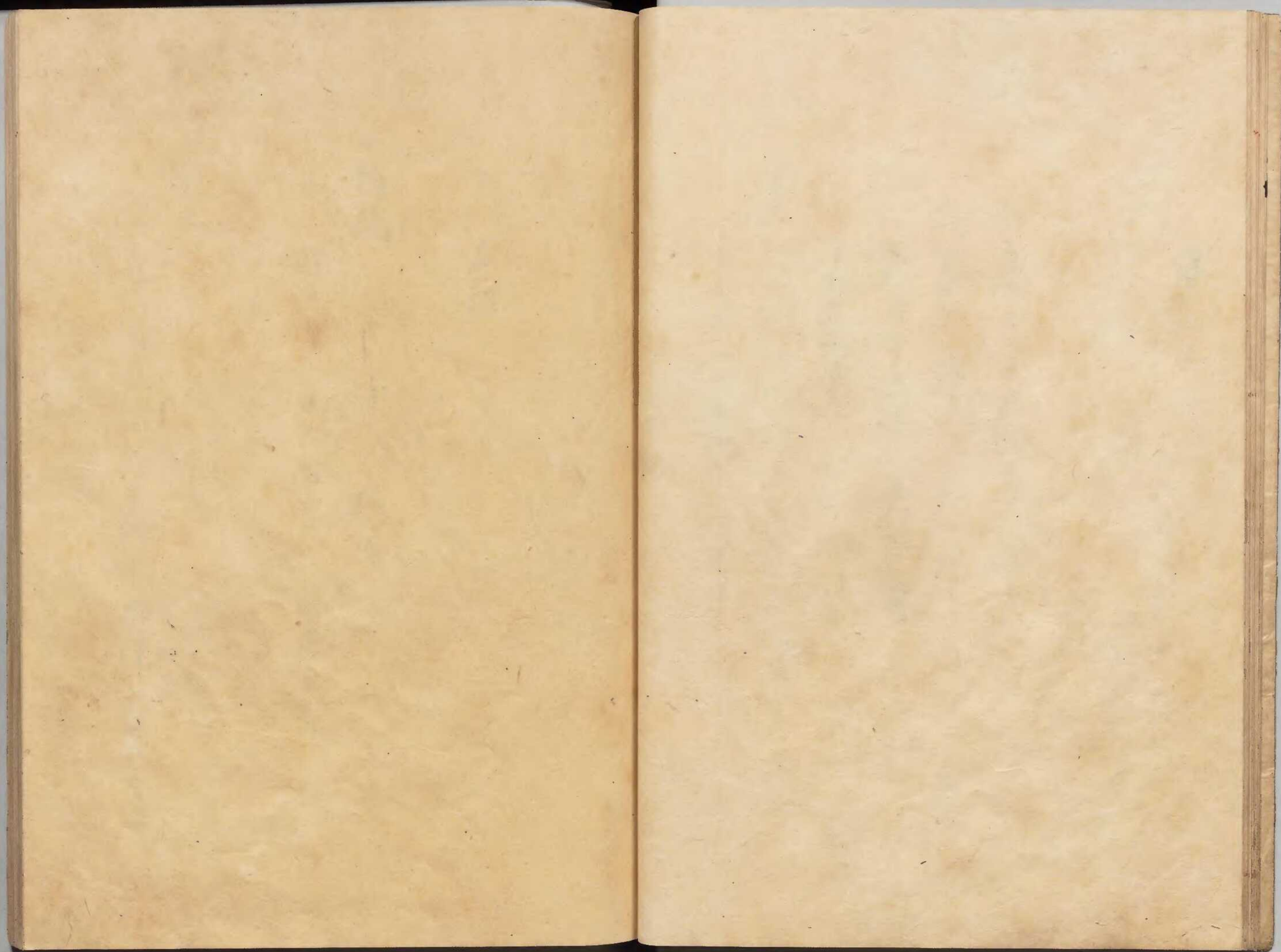
家紋友巴

このまき

清水家紋藤丸

このまきのまき







石河

● 頼親

頼光才

大和守

● 頼遠

福原三郎

● 有光

石河冠者 頼光才  
頼遠 大和守  
福原三郎  
奥列 柳津と号と坂



基光 もとみつ

三郎

光義 みつぎ

太郎

義季 よしみ

三郎

光治 みつぢ

兼久の乱の時園東乃味方よ系とる

中(英徳園市橋庄乃地以とる

け間中縁と

某 その

英徳園加い鴻と縁と

法名三園

某

任取同前 法名江雲



某

何取同お 妙心寺キョウイン 善提ぜんたい 何りなに 養徳やうとく 院  
ご号と 法名 養徳

先政せんせい

本工兵衛尉ほんこうべゑう 何取同お 秀吉ひでよし つふ  
法名 守桂しゅけい

貞政ていせい

若年わかしゅ 何り 秀吉ひでよし 何り  
廣長二年十二月 法五位下ほうちやうにげご に叙しよ 一い 法名ほうちやう  
生國江列なまくにえり

何り 何り  
何五年 園のぞ 原はら 何り 何り

大権現おほごんげん 何り 何り 何り 何り  
大坂おおさか 何り 何り 何り 何り



台徳院殿乃御借にり一軍事と改たじ

務政むさし

台徳院殿ごうてい

生國同前しやうこく

文祿三年えんろく

台徳院殿ごうてい乃御借にり一軍事と改たじ

文祿五年ぶんろく其四御陣しよん乃御借にり

大坂乃御陣おさか乃御借にり一軍事と改たじ

寛永十年かんえい三月泉列いづみ乃改たじ一職と承うけ継つ

同十五年十二月ごうご乃御借にり一軍事と改たじ  
任にんじ

利政りせい

三右衛門尉さんゆうもん

生島武藏なましま乃御借にり

文祿十七年ぶんろく

台徳院殿ごうてい乃御借にり一軍事と改たじ  
乃御陣なご乃御借にり



重勝 重勝

二五郎

しんごう  
生國同家

寛永七年

台徳院殿（所々）

利勝 利勝

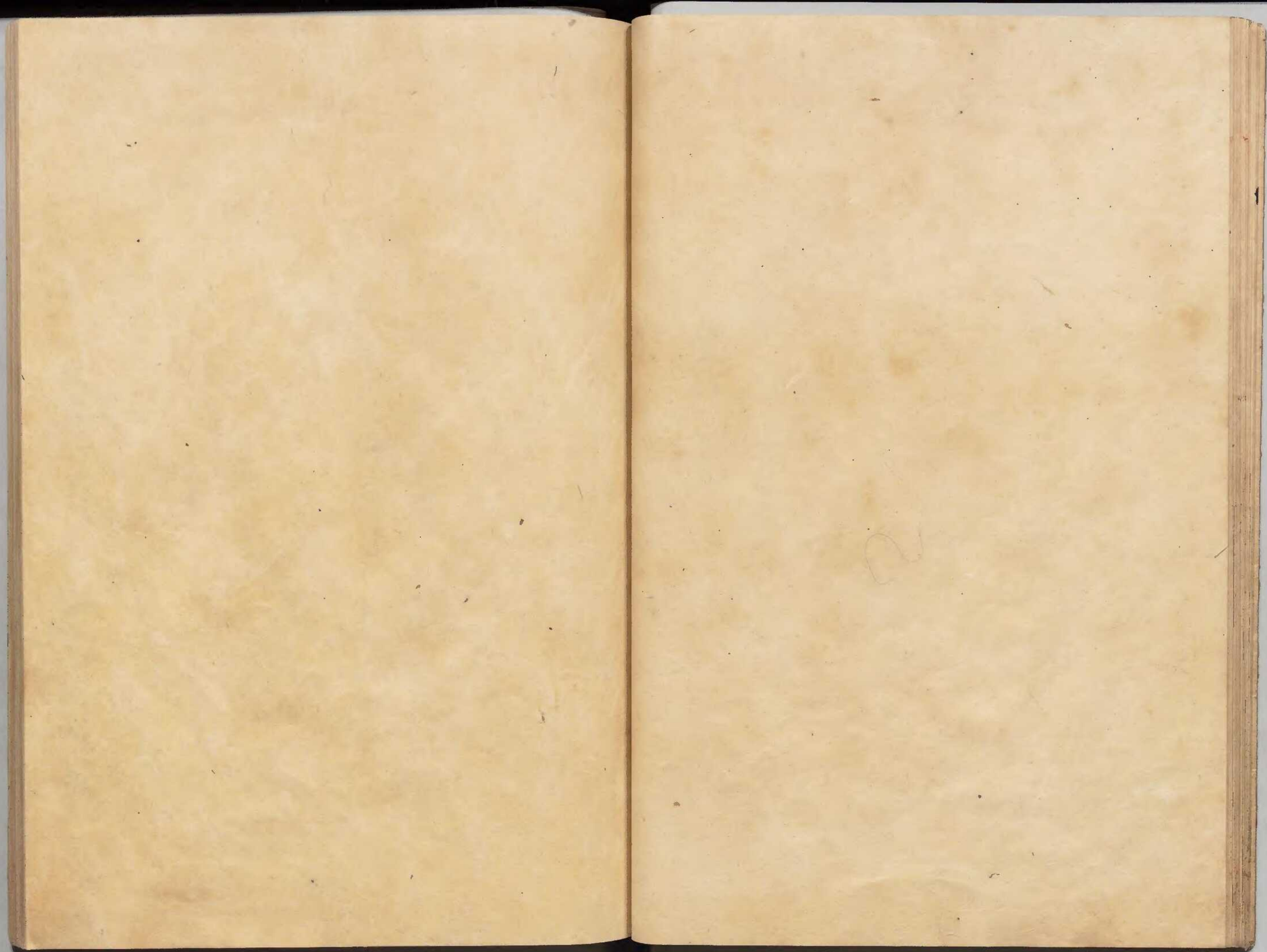
権九郎 生國同家

寛永九年

台徳院殿（所々）

いへのえ  
家紋二連







● 後念

乃部右衛門尉

小糸家乃軍士信列  
河内清原教一

依田

大和源氏乃末流  
乃代信列依久  
那依田乃城  
乃信列  
乃依田



出張乃時後舎之杖管領之属一々小糸  
之兵と戦く討死之時り五十一歳

行信 ゆきのぶ

石見守 いせののり

時行 ときゆき

伊勢守 いせのり

信貞 のぶさだ

備前守 びぜんのみ

甲列勢に属して款地本若く領内一々  
らさ轉内々々討死之時り四十四歳

信蕃 のぶとむ

松平常陸公 后五位下  
信列 芦田乃城下 領内



東照大権現ノ属ぞう一いちたぐたぐまつりてまつり敷夜乃軍しよやのぐん  
 忠阿ちあのふのふらら松平乃称号ととつつ保保りり  
 十じゆ万まん石しやく乃地のちとと所領しよりやうとと後いそ岩尾乃城いわおのしろ  
 少まじくく兄あにい計けい三人討死とと

康國やとくに

松平源十郎 修理大夫 従五位下ちよりのたふ ともごわけ  
 大権現おほごんげんよりより西さい諱いみな乃康乃字とと下したととすす  
 小田原陣乃ととささ討死とと

康貞やとまき

松平右衛門大夫 従五位下よゐごわけ  
 大権現おほごんげんよりより三さん万まん石しやく乃地のちとと所領しよりやうとと

信吉しんきち

小田原おだわら守まもり  
 信吉しんきち



信幸 しんゆき

伊賀守 いがのしゅ

大指現乃所信以こも——信外えんよおもむしん小  
糸しんの願内のり若尾乃城しんとせめしんと  
兄信蕃しん才信喜しんと一雨しんとく討死しん

信守 しんしゅ

肥前守 ひぜんしゅ

永祿えいりく五年ごねんと野真輪のまのり乃城のりおぬくぬき小糸  
乃岳のだけと戦たたかと交まじ——大糸おほいとらやらがりがらひ  
武者むしやとららりり府ふとららりり軍功ぐんこう  
より信玄しんげんより黒地くろぢ乃ありありけとけ控か控  
さうさうらららら夫む回安房守昌幸わいのしゅしん

大指現おほいへ所敵ところとらりら働はたらき出で家の時昌幸まのしん  
も黒地くろぢのありありけとけととららりりつつき信守しんしゅ  
もいいとくとく黒地くろぢ乃ありありけとけととららりり  
乃のひひひひ



大権現大久保を有馬とて川く作下

うが

大権現御ると甲州新府小出さるるに記

後身先子とうもたまりり三沢小屋小

て軍忠とぬさんづ

天正年中

大権現共回と般若のりひ乃時毎夜

軍切と上げまじと小糸家佐久郡

乃内う中守乃保同郡小田井乃保り

橋井大膳正二役丹波守と二めとき  
と信守二せとせめく橋井二役なび  
と雑兵のまじうらうりくはわり保  
とおとひ

大権現其軍切と感トたまひく先祖の

本領一百石乃地と下さるる人質の

願ふとて後河内編系大津の二村

とく八百石洋領と

信列傳野よおぬく宿傳と般若とて



久一 軍士何まきいりり信守疋とうり家  
少さ

大権現より威状と下家

今乃至伴野地相御家疋之由寔  
多法教義山結宿城之悉令救火救  
多法付捕之由也山結地走之可  
為申るの事、深々

七月十九日 家康御在判

依回紀前守あり

一 依回紀前守後守フ四

大権現 芦田修理大夫康國は命じて 誘ふ  
四十七人歩卒貳百人信守より代けらる  
去るは本年

大権現系揚退治のため奥列におもじま  
たまふ時小山まきく信守とそりち園ヶ  
原御陣のよ記

右徳院殿よりあさひたきまうり信列  
其回乃城下におわく作とつけさま  
りりまきく是程いくさありそのら











信重 ふしむ

くらの

内藤助

生園三野 うぶの

元和二年 わのじゆちうのこふ 阿部備中守 但々所書

院書 えん と所と心

寛永十六年 えん 約命小より所らの一ら

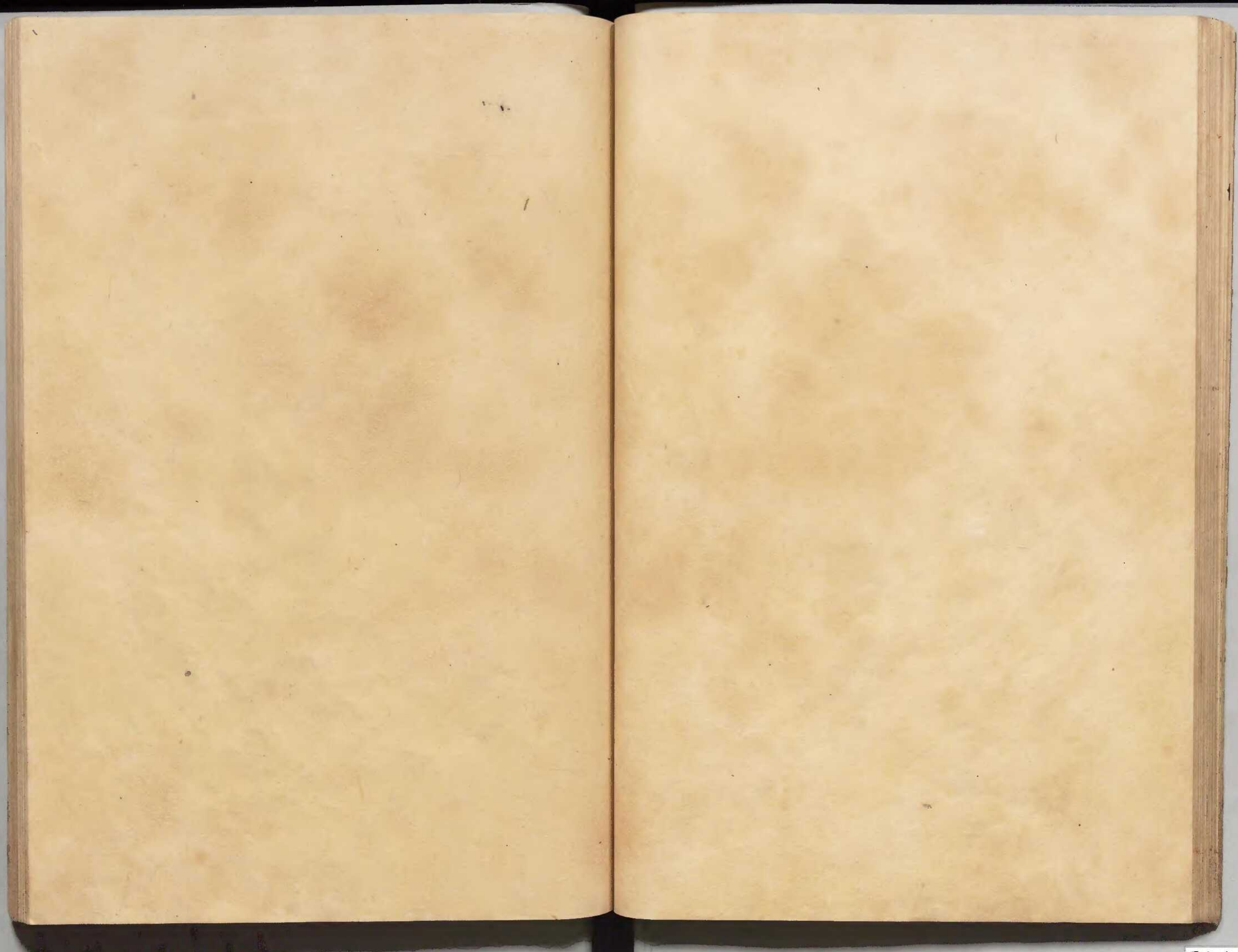
と所

信弘 ふしむ

友一助 生園同前

いへのんまのうしよしん  
家紋丸内三蝶







倭田

廿八字野氏よりといへども先祖

字野下野身親弘が孫宇野太郎

有氏以後倭田乃城り領と

有氏の子ハ鞠子乃冠者二部有光

と号し其子孫倭田乃某是利

高氏ノ属一て是國よく討死



● 全良 まさむね

板鼻右馬允 いとうま とうまのせう

之野必板鼻よを味付り管領へ奉云  
りこ—八十余もく病死 いんせい かつう

全賀 まさかみ

目六郎 めいろ

幼少乃時父よなるれ者回と野り死  
たくらきて碓井峠もく早八歳の うすゐのたけ

とき討死 ときうし

全真 まさまこと

平原下総 ひらの ちげ

信濃国平原より在城—村上義清籠  
下につさ義清浪人以後なるとやめて  
九十七歳もく病死 いせ



信威 のり

曰又た清

武回信玄のり一はは武功あり小中のり諱

乃信乃字とさげく五十一歳りて死

法名全業

昌忠 まさ

同名近

えんり三十一

子別二候よおわく三十一歳乃時討死

法名全香昌忠が元源花川中流りて討死

時り五十五歳乃時監信別加賀川りて討死

時り三十九歳

盛敏系 もり

依田右馬助 よだひまのすけ

九歳乃とき父昌忠りもふと祖父信

盛り乃とき父昌忠りもふと祖父信



青と波と心

小田原より松本丹波小田井乃城と家

よりてこまある時盛繁

大権現乃御味方小まより平原より働りの

城とせめおとら

天正十年相波入道に敵とあり小田原

一引退くゆき敵とをいけ首一川討

ゆき

大権現甲列新府に出る乃時山前へ石出

うれさ下けなり御意より河川より

同十九年奥列に陣乃に供りきこび

同心二十人と河川より

長五年

右徳院殿信列と田(河)をくつき乃とき

同心二十人とありしきと田乃御嵩と

つとしそのらき侍乃御嵩と作付

ら家

大坂あが乃御陣よ中多依波守心信



銀みくみ後あ向う一さ首ら一ら川ら付らら  
七十八せ策ちくち病び死じ

盛吉もりよし

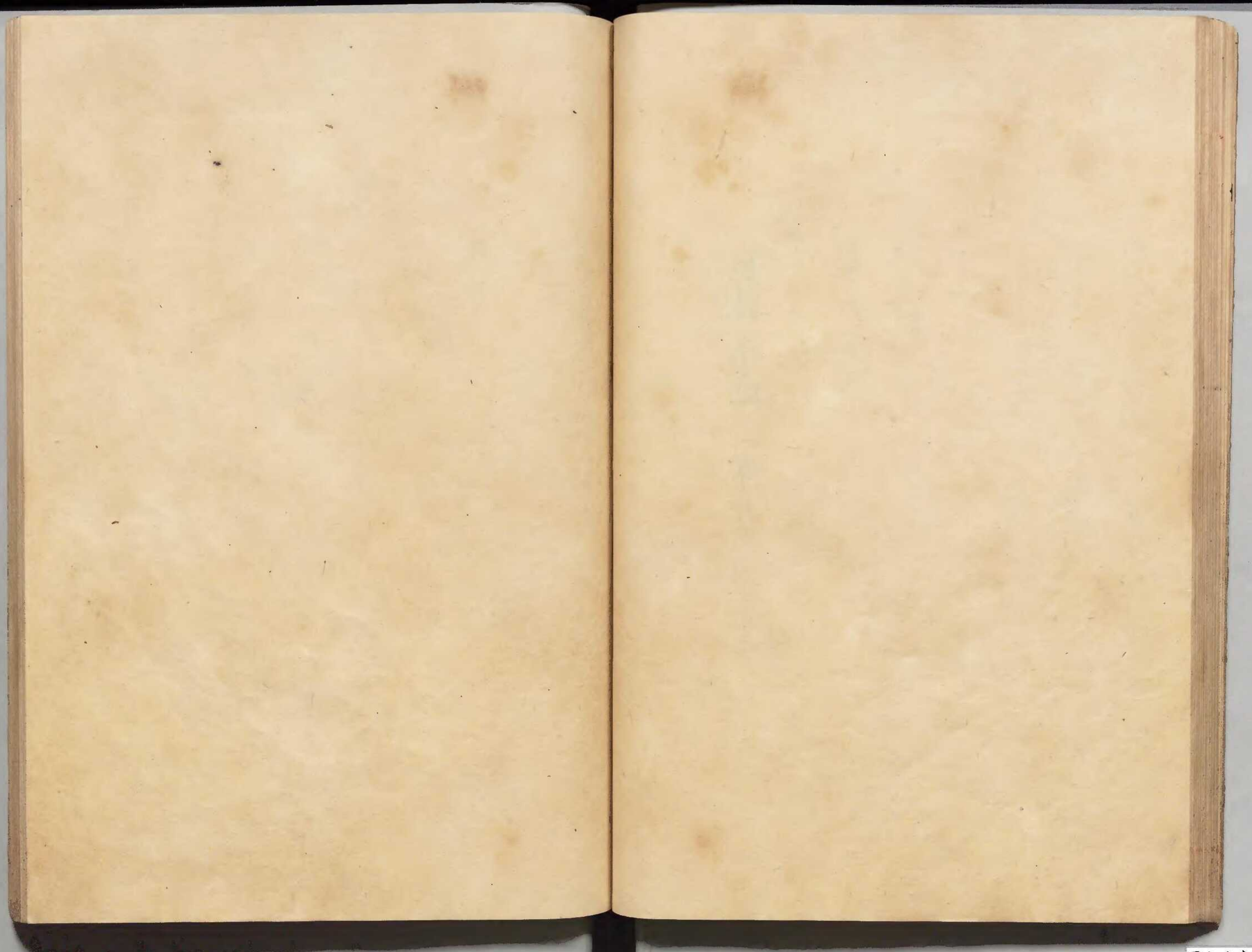
又た勝またかち

寛永九年かんえいくわんねん

將軍家しやうぐんけ一い出でしし之の後の必かならずくく知行ちぎやうちぎ指さし  
領りやうしし江え戶う御ご城じやう中ちゆう天てん守しゆ書しよととししととむむ

一いののえんえんききののららににああららふふ  
家け級きゆう九く内ない三さん蝶てつ







● 國名

倭國よだ

次郎あしろう太清たせい尉ゑい 生國なうくに信列しんれつ佐久さく郡ぐん  
芦田あしだ常陸つねむち奴ぬ小こ治ぢ郡ぐん

重吉ちゆうきち

新あたら太清たせい尉ゑい

生國なうくに同どう前ぜん



吉清

うきよ

半た清

せきかきしこん

廣長五子園ヶ原御陣乃と記

大権現一め一出ささる

吉久

うきひ

半た清 生國と野高山郡友尾村

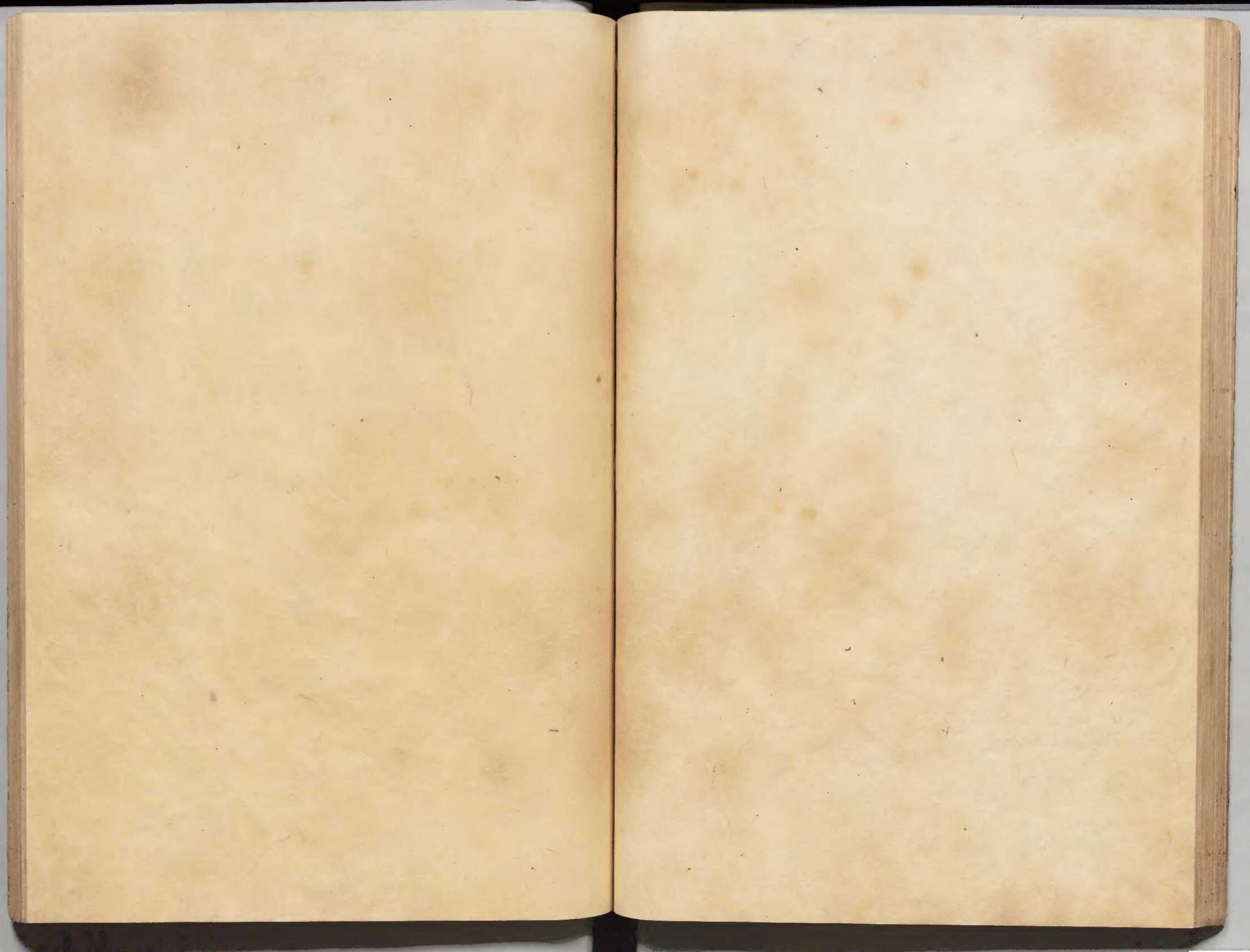
うきうきふたまたまのりやう

江戸御陣しん天守てんしゆ番と作と心

家紋釘貫

いへのん くさめさ







● 元吉

依田

但馬 生國信判 依久那

芦田常隆 依久

天正十年 九月十日六十一歳と病死

法名 靈專



國吉

劫三席 生國同前

慶長五年 園ヶ原陣陣乃と記

大権現へりし出うれを後

台酒院殿

將軍家へ行へりしと記

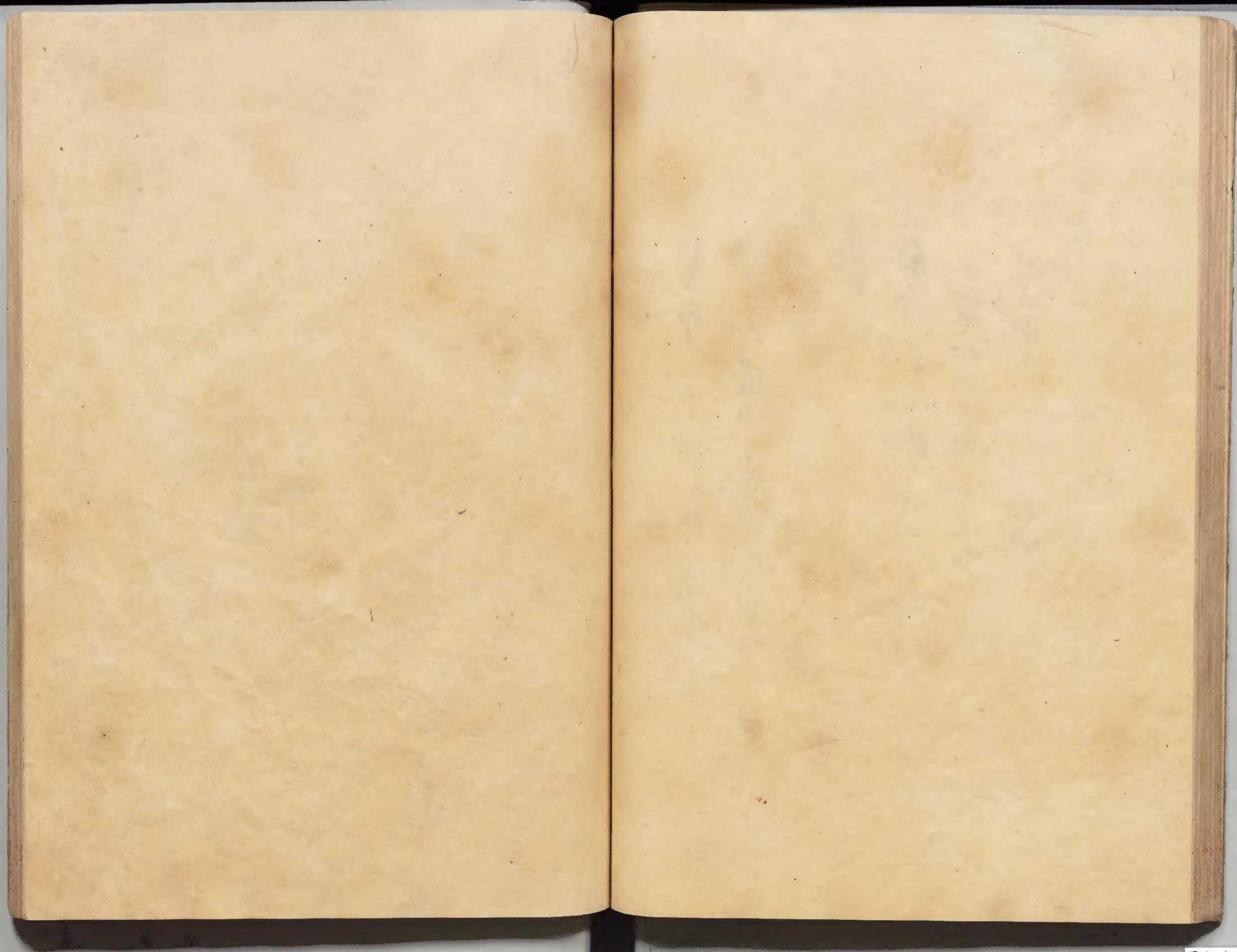
吉正

劫三席 生國と野緑堂

江戸御珠山天守御番とつと記

家紋と羽蝶







● 某 ミヤ

倭田 ムラタ

基又た清 ミタラシ 生園 ウツノ 列 レツ  
武田信玄 ムケノシノブ 務頼父子 ムケノツルギタカ 所 トコロ

守秀 モリヒデ

金尾清 カナオノシヨウ

生園同前 ウツノドウゼン



芦田右衛門大夫康貞一門の家康貞  
属

大権現甲州新府(所出)乃时信列山

小屋(志)節(河)り

慶長五年(因)今(原)陣(信)守(守)

守次

甚(大)権(現) 生(國)同(前)

大権現

右衛門殿(河)乃(信)守(守)

大坂(あ)乃(河)陣(信)守(守)

守久

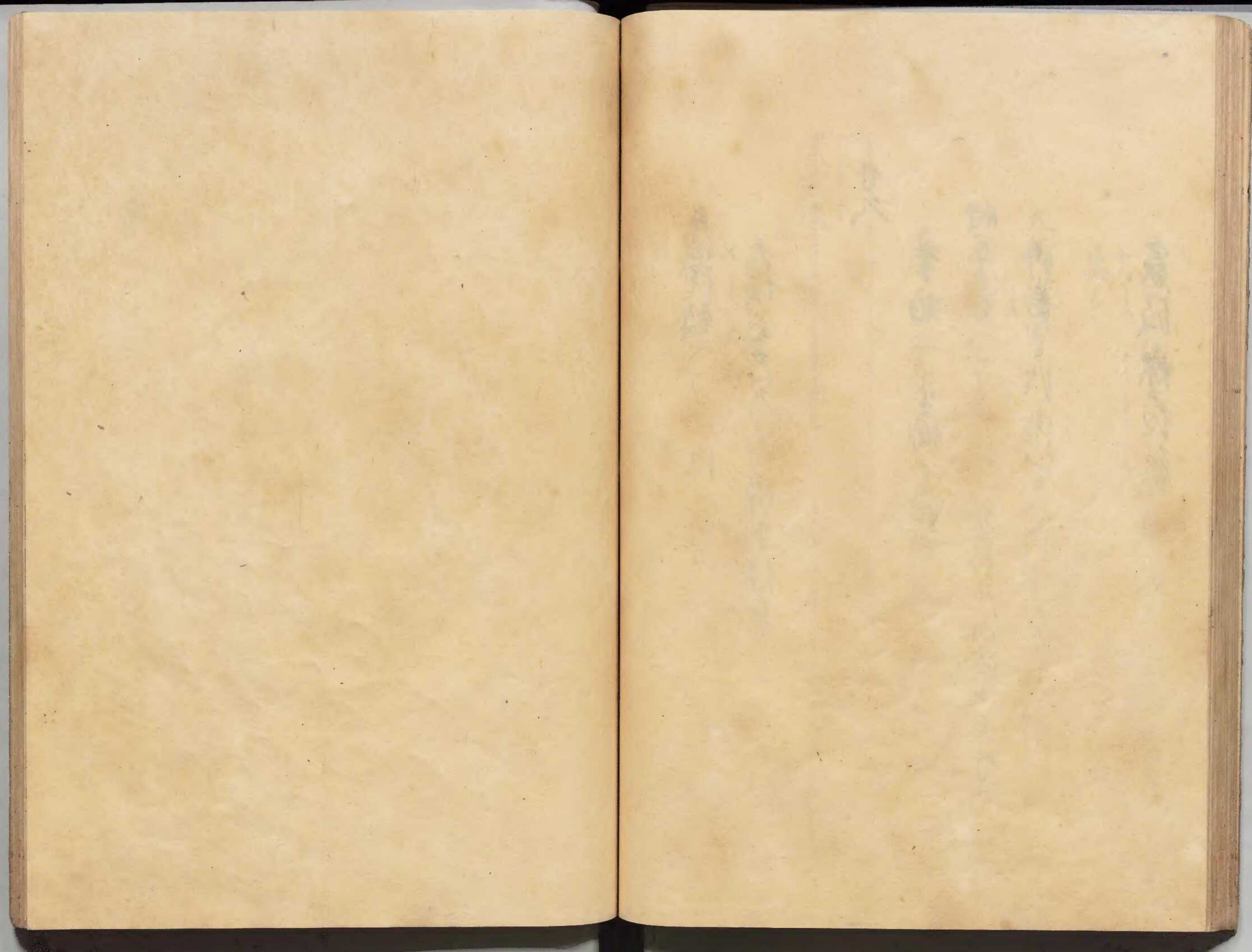
平(助) 生(國)上(野)

將軍家(河)乃(信)守(守)乃

御(番)と(信)守(守)

家(紋)蝶(花)紙







● 信正のまこと

倭田よだ

備前びぜん

生國なうくに 信濃しんの

武田信虎むけだのしんこ 虎ノ尾とらのお 一ヶ家いっけ 卒す 五人ごにん あり

信吉のきち

たをとえ

生國なうくに 同家どうけ



信玄のちふ頼父のちふ子のちふは信之のちふと号すのちふ歩卒のちふ乃のちふ以のちふ之のちふ也のちふ

信次のちふ

甲冑のちふた遠のちふ射のちふ 生國のちふ同のちふ也のちふ

芦田のちふ右衛門のちふが一族のちふたるにのちふ信之のちふと号すのちふ

あこがふ

東照のちふ大権現のちふ甲列のちふ新府のちふ（出のちふる）乃のちふ時のちふ信次のちふ

忠節のちふと号すのちふ

園のちふヶ原のちふ陣のちふ乃のちふ時のちふにのちふ出のちふるのちふはのちふ信之のちふと号すのちふ

歩卒のちふと号すのちふ

五十二のちふ歳のちふにのちふ死のちふすのちふ

信忠のちふ

権左のちふ衛のちふ 生國のちふ之のちふ野のちふ

信濃のちふ殿のちふは信之のちふと号すのちふ

大坂のちふあり乃のちふ陣のちふにのちふ信之のちふと号すのちふ

寛永のちふ十二年のちふ信之のちふはのちふ後河のちふ大納のちふ言のちふ忠のちふ也のちふ

ついで



同六年 石出さねく

乃軍家よつとくくくくく

家級凡内蝶記



● 貞元

海回 よた  
元来 えんらい 付野氏 ついのぢ たりこいへども 守 まも 壘 り  
河 か 川 がわ へ 芦田 あしだ 大 おほ 橋 はし 佐 さ 分 ぶん 丸 まる  
と 海 うみ と あり ため 海 うみ 回 まわ と  
称 なづ 号 なづ 号 なづ

付野 ついの 新 あらた 部 ぶ 古 ふる 補 ほ



世一甲斐乃國主につふ

貞平 まひら

相模守 さかきぬき

貞信 まこと

為狭守 まはさぬき

貞行 まこと

宮内 みやうち

貞守 まこと

能中守 のちゆうぬき

生國守 なまくにぬき

武田貞玄たけだまことつゝくつ信列のぶりつ 喜日乃城きじつのしろを

信守 のぶみ

弘治二年二月十八日貞守が二男右と忠 えんりえのまこと

信列のぶりつ和田乃城わだのしろをつつゝくつ河尻かわせりと才さいとた信守

信列のぶりつ水内郡みづうちぐん葛山かづまをつつゝくつ河尻かわせりと是こゝろと依よりて

信玄のぶひら守み感州かんしゅう二通にとほと貞守まこととあつふ



貞直 ただち

大藏左衛門 おほぞうざゑもん 生石同前 いしどうぜん

信玄侍 のぶひら 頼朝 よりとも

守直 もりちか

飯田小軍人 いひだこぐまにん 生石同前 いしどうぜん

信列 のぶりつ 務間北條 むまはな 頼朝 よりとも

芦田右衛門 あしだゑもん 依信 よのぶ 善 よし 一族 いちぞく と成 なり く侍野 しやくの と

あつたけく 飯田 いひだ と号 なづな 奥列 おくりつ 侍陣 しやくぢん の時 とき

東照大権現 とうしょうだいこんげん ありていひま

吉田 よしか 侍陣 しやくぢん の時 とき

台座院殿 たいざえん の侍 しやくぢん ともつ ともつ せじ せじ 之後 のち 信 のぶ 依 よ 成 なり く

信列 のぶりつ と田 のり の城 のしろ 一 いち 也 なり 善 よし 也 なり

大坂 おほさか 前 まへ 乃 なり 侍陣 しやくぢん の時 とき なる依 よ 成 なり 侍 しやくぢん 也 なり

一 いち 也 なり 侍 しやくぢん 也 なり 也 なり

元和九年 げんわくくわねん 二月 にがつ 作 つく 依 よ 成 なり 後河 ごが 大納言 だいなごん 也 なり

忠長 ただなが 郷 きょう 一 いち 也 なり 侍 しやくぢん 也 なり 信列 のぶりつ 小法 せうぼう の城 のしろ 善 よし 也 なり



此中じ

寛永元年七月病死年七十

法名道常

改定

小隼人

生國之野

實ハ松井与右衛門宗利ノ子ナリ外祖父

守直子ナリ初メ倣ヒ是ト養ヒ子トシ

松井宗利系島ノ橘氏乃初メ君トナリ

元和四年正月改直七歳少ク

右衛門殿と云一より其後父と同

く忠長より一は

寛永十九年十二月

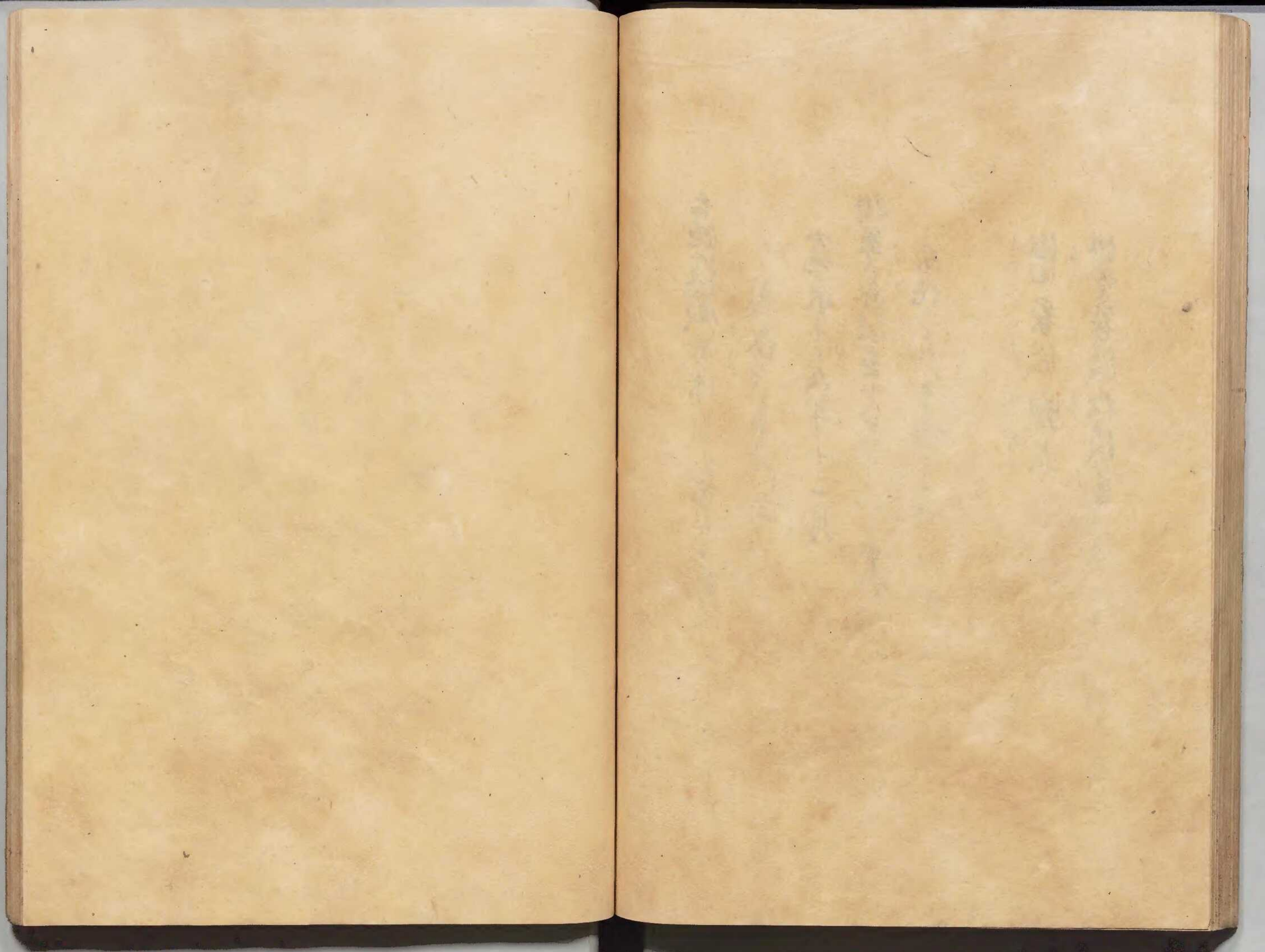
將軍家改定と云一甲列乃内少

未地とたまふ

倣回家紋蝶丸

侍所家紋松皮菱







大森

大和守源頼親八代乃孫我治やまのしん一

めて大森と称と我治な子と治負る

少とい治負る子と行治ゆといひ

行治る子と盛治りといひ盛治る子と

頼濟りといひ代い相あ治いりく大森と

称そのと其末流なりなり



親好 ちか

中尾節 ちおのふし 中右衛門尉 ちゆうゑもんゑい 生田参河 なまのまゐ

清康君 きよかみ 廣忠 ひろただ 心 こころ

天文二十二年三月廿五日病死六十七歳 てんぶんにじゅうにねんさんがつにじゅうごふにちびやくにむそしちさい

法名 ほふな 照心 ていしん

好治 ちかぢ

中七郎 ちゆうしちらう 生田同前 なまのどうぜん

廣忠 ひろただ 心 こころ 存 ぞん 心 こころ

東照大権現 とうてうだいこんげん 之 の 位 ゐ 之 の 位 ゐ 之 の 位 ゐ

天正十八年七月十六日病死六十一歳 てんしやうじゅうはちねんしちがつにじゅうろくにちびやくにむそいちさい

法名 ほふな 源信 げんしん

好長 ちかぢやう

中七郎 ちゆうしちらう 生田同前 なまのどうぜん

天文九年 てんぶんくわねん 江戸小 えどこ 之 の 位 ゐ

大権現 だいこんげん 之 の 位 ゐ 之 の 位 ゐ 之 の 位 ゐ

同十九年 どうじゅうくわねん 武州 ぶしゅう 児玉郡 こゑたまぐん 乃 の 同 どう 之 の 位 ゐ



行と評願と

同年大坂御陣の修葺時より高堂和泉と

高虎敵城らくくそあんとし好長け

ひひとそとけきとふら 均命と

つうりも虎う陣取し家事あ

度好長も虎うそつれ敵城あひ

うるかるとそんあ竹束とくき

とかきてゆりあて其おしと云

とと

元和元年大坂幕親乃時五月七日

大権現御馬と天王寺口とくめたまふ

付た方にあつてく多勢あ川まら

く敵味方ふゆなす寸好長均命と

つけたまひりて城とくし純向く一人

乃侍りあひ其控へととひなれハ小

笠原兵部大輔う人数たり兵部左衛

尉死ゆれ士卒とあ川しり

らりかくのこととくく子好長其



名とすのめきハ長初太博の籠取  
塩屋監物とりよあななり好長又

一人のふしひよあしく其能とと  
一は鉄炮頭其塚佐左衛門とてふ

好長をふりし我陣よりりてけ  
と言とてうれは先陣とてめて

能じよ好長とて味方の去也  
汗流して御馬乃た右り列を

同二年三月十五日武列高藤郡安寺

乃御まく御加増と存願と

同年四月十七日

大権規薨御乃ら

台徳院殿より候久しそす川家

同三年并之身計以心就り紐し所へ

御着とつと心

同年

大権規乃御廟と日光山へうりうり時

好長修をりり列と



同年御寶物と後列久能なるひよ白  
光山(寺)納乃時好長を引と

同年御入洛乃信を

あちら又

台徳院殿御入洛日光山由泰清乃山止

料及信を

同五年下総國香取郡 伴能乃心く

御加増と洋領と

同六年 東福門院由入乃時好長御

治身乃信をり列と

寛永六年御膳番乃奉行となる

同九年

台徳院殿薨御乃ち

將軍家より信をり列と

同年御使番となるりとなつらと使と

く大坂よたをむ子御同封乃役と川

とじ

同十年御同封成よくとなつた



同年御持符乃鉄炮以と取り与力十  
海歩同心八十五人とあり

同年布衣と格うう家

同年甲列山梨林乃月々く七百石乃

御加増ありて都合子四百八十餘石と

願と

同十一年御入洛乃借書

日光山御系消毎度借書

好輝

格了助

生國武彦

寛永十年と一

御家と格一

同十五年申多美代舟組と

流と心



重長 かみなが

加茂牛久助 かものうすけ

襦袢乃らら きんぎょ 加茂勘助 かものかんすけ 之助 のすけ

て子 てこ

寛永十一年 かんえいじゅういちねん

將軍家 しやうぐんか と と ね ね たく たく ず ず け け

二のりんせいのしちよい 家 か 級 きゅう 九 く 月 げつ 報 ほう 吉 きち 系 けい 三 さん



● 政治

幸田

侍(稱)と宇野七郎親治の後胤也

大藏卿

大藏丞

小栗氏政

天正十四年二月十二日死



継治

五た透

生同前

文禄元年えろくより始る

大権現への出立

寛永五年とまへせき小山園より原宿陣くふに修治

同十九年元和元年大坂ありの陣おさかありの陣

に修治

元和二年

右徳院殿への出立

同九年より

將軍家への出立

寛永十五年八月十八日七十二歳にて病死

友治

七三歳 生同前

慶長十年

右徳院殿への出立



大坂南の方乃御陣と記す

元和九年

將軍家と存い一いそし川家

清治

半松 兼武い松

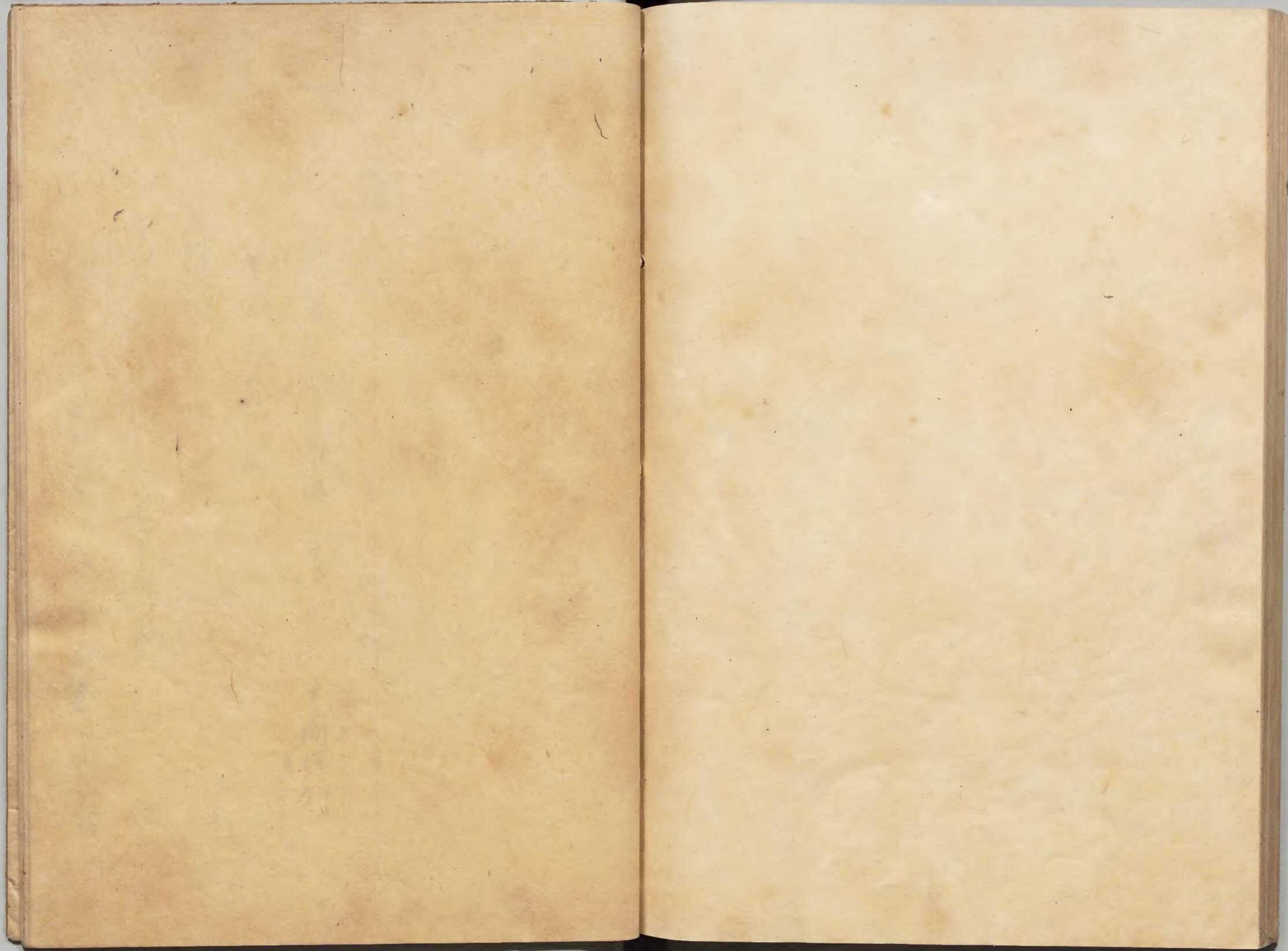
寛永十八年十一月六日

將軍家と存い一いそし川家

同十六年大御書と記す

家紋凡内松







近路

朝日

判發して壽永と号す  
甲列没落乃時

生國佐列

大権現

台座院殿と稱す

慶長八年七月廿八日卯午女系うく記



近次

十右衛門

生國武列

台座院殿

將軍家へ此之へそまのり

享文十九年大坂御陣くふ

元和元年大坂御陣くふ乃時伏見御城くふ

乃番と相つとじ

寛永二年七月朔日二十くふ死

法名う達

近吉

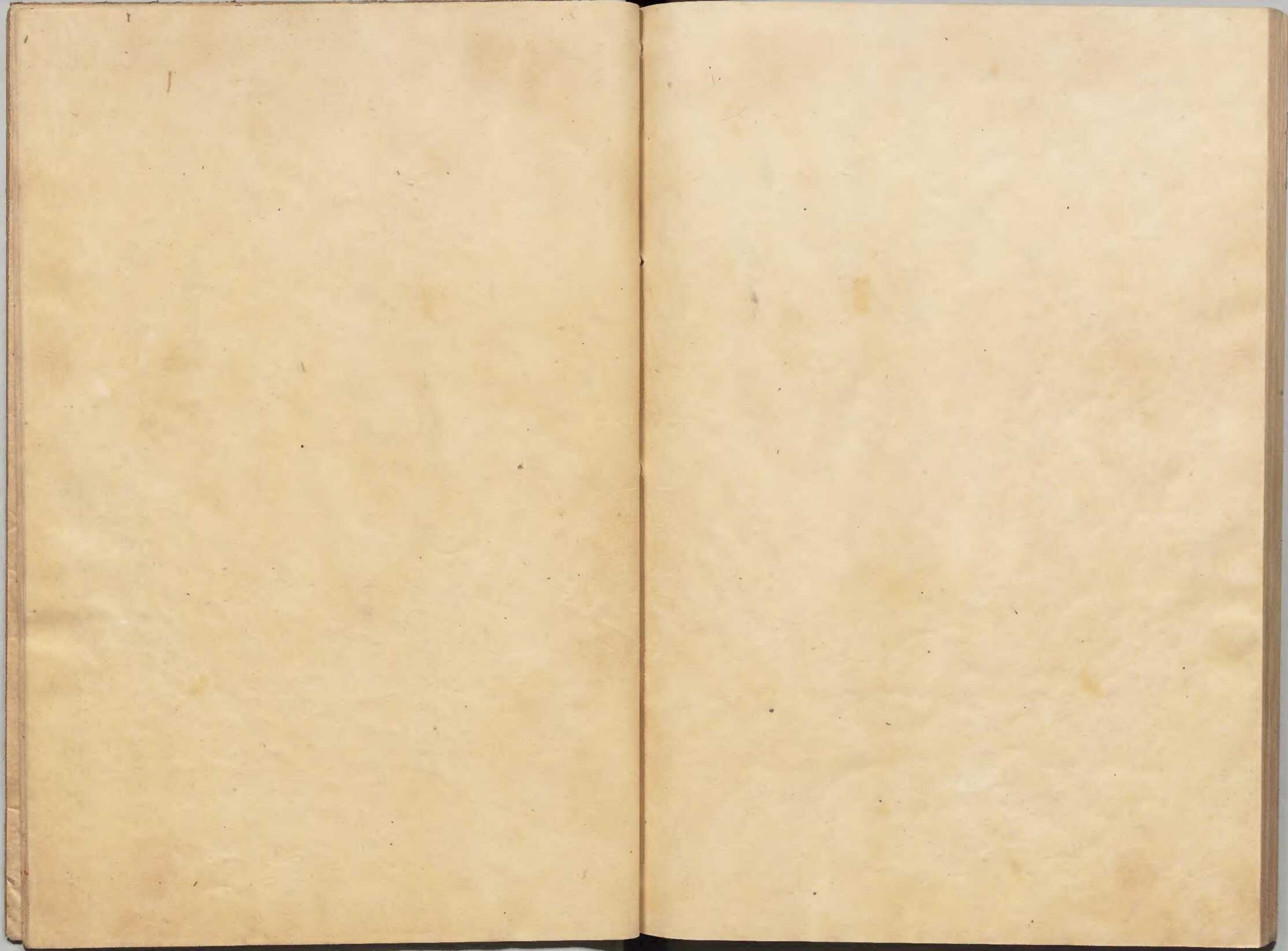
十右衛門 生國山城 寛永七年六月十日

將軍家と係くふ一たくまのり家

同十四日御番と相つとじ

家紋丸内上二文字下本丸







● 英治 ひでとも

宇野右衛門太郎 うの うえん たらう

最明寺時頼乃附英治和列より豆列 さいめいじ ときより 乃 つけ 英治 和列 豆列

八牧郷より子通舎御家人とたり附 やまけの郷 子 通舎 御家人 と たり 附

河川 にがわ

傳(稱)ど河川先祖ハ大和源氏宇野親治の後流たり つた (稱) ど 河川 先祖 ハ 大和 源氏 宇野 親治 の 後流 たり



英治ひてちり 蕪山うりやま 酒とゆへ  
 味あじ あり 時頼ときより 二ふた 事こと のんて  
 感かん 下した たまふ ころゆへ 今いま あり  
 酒さけ の名な とゆへ

英親ひてちり

英友ひてとも

友治ともちり

英信ひてしん

英房ひてふさ

英住ひてじゆ

英盛ひてもり

英系ひてけい

英元ひてもと

河川かえん 肥前ひぜん 生國なまくに 伊豆いづ  
 小糸こいと 早雲はやぐも 寺てら 武藏むさし と 伊豆いづ 相摸さかぎ 了りやう  
 妙たう ふとさ 英元ひてもと 二ふた 事こと よあさ び 忠ちゆう 功こう



ありり川く番地としまふ判取  
あり又代官とけたまはる早雲寺の  
酒と巻一酒祓屋とけりまふら  
酒となづけく江川とふ

英吉

肥前 生國同前  
小糸氏徳氏康氏政氏並下  
天正十八年秀吉小田原(を)後と記並

山崎城川輪とまきりまぐり  
落城乃ち

東照大権現乃作江川(所)と  
なまへす先例のてくたき  
ひの朝比奈宗太師とけたまはる家  
ゆへり城内ありてけふ

文禄元年

大権現筑紫那護屋(所)を陣の  
英吉酒とくひく陣







大権現園東御入園のときめり出さして早

雲寺よりこのし乃根子と仰るるあり

て又酒部屋と修理のため出代官法役

等と申候は許りたまふ伊奈惣務彦坂

小刑部是とつけたまふ又出代官取

酒米と申あけもたまふ少いよく

麴と製衣一多とありい酒と仰り

ことと申ごらるい酒樽と仰見へまふ

大権現園にたまひ日本一乃酒なるべし

御慶美乃りか々凡集へつけたまひ

御感乃御書とさう

台座院殿仰見よたりまき酒樽と申

と御感なるるさうしそい書と項

載と

英政

大島右衛門

生國同あ



英利 ひょうり

太郎左衛門

しろうざゑもん  
生國同前

家紋 いえもん

菊井 きくのゐ



